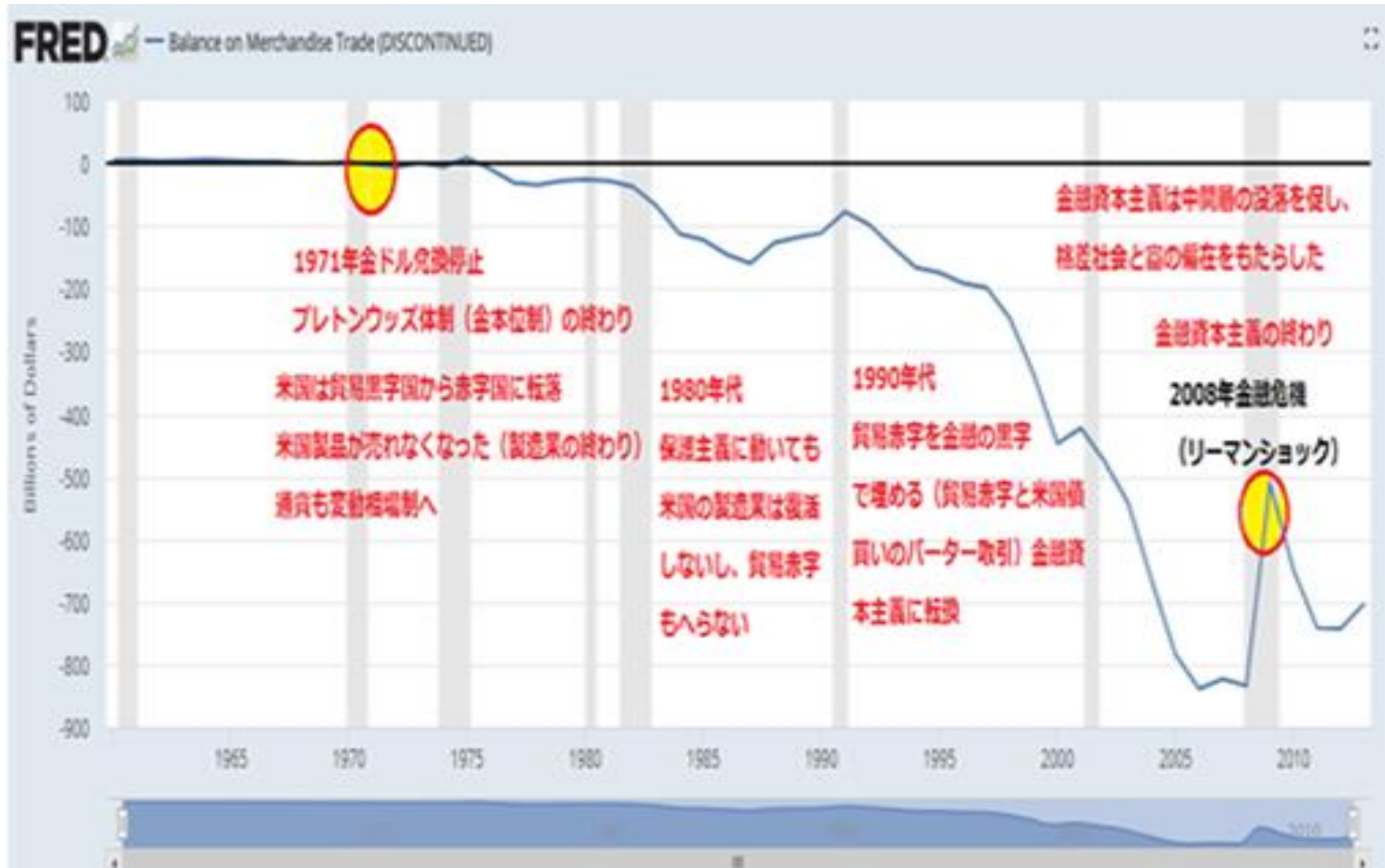


米国の貿易赤字とトランプの政策転換



金融資本主義が格差の拡大と富の偏在で終焉を迎え、保護主義・孤立主義が台頭してきた。

出所：セントルイス連銀

マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート【THE GLOOM BOOM & DOOM】



これまでレポートで論じてきた多くの要因から、2018年1月26日はS&P 500株価指数だけでなく、世界中ほとんどの株式市場にとって大天井となる可能性が高いと私は考えている。

ところが、モルガン・スタンレーの2月報告にあるように、個人投資家は「株式から距離を置けずにいる」ようだ。米個人投資家協会の株式配分指数が2000年以来の最高水準である72%にまで上昇した。ドイツ銀行の消費者心理データ分析でも、個人投資家は現在の環境を「市場に投資する絶好の機会」とみているという。

米国の個人投資家が株式に72%の資産配分をしている…。この高い評価を考えれば、私は自分の株式ポジションを減らしたくなる。実際のところ現在の環境は、長期的な観点から市場に投資する最悪のタイミングに見える。

重要なのは、もしFBの下げが残りのFAANG株（AMZN、AAPL、NFLX、GOOGL）に先行している（のであれば）市場に高値更新の可能性がほとんど残っていないことだ。ただし、FBがかつて2016年後半に、上昇局面の途中で大きな修正が入った点に注意してほしい。最近の株価崩壊は、まだ確定的なものではない。

S&P500も2015年末から2016年2月安値（1810）まで、さらに大きな修正（21%）をみせている。そして、その2016年2月安値から2015年11月に付けた高値を明確に更新するのに2016年7月までかかった。つまり、金融引き締め環境から、その可能性は高いとはいえ、株価が2018年1月26日に大天井を付けたと結論づけるのも時期尚早なのだ。

マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート2018年4月号『反「中国式非自由主義国」論者の明らかな誤り』・国内代理店パンローリングの掲載許可をとって掲載

フェイスブック (日足)

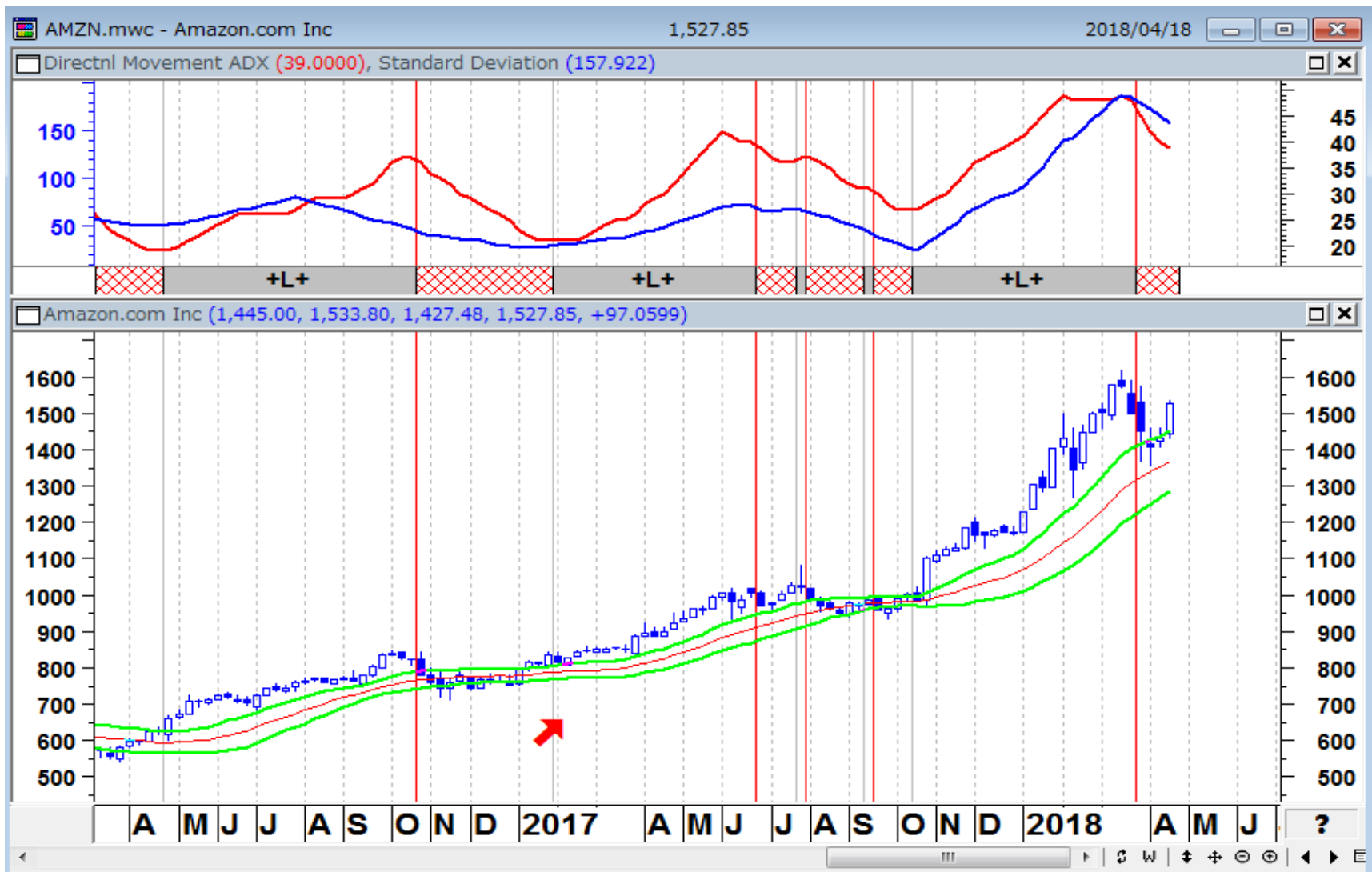
上段：14日修正平均ADX (赤) ・ 26日標準偏差ボラティリティ (青)

下段：21日ボリンジャーバンド±0.6シグマ (緑)



アマゾン (日足)

上段 : 14日修正平均ADX (赤) ・ 26日標準偏差ボラティリティ (青)
下段 : 21日ボリンジャーバンド±0.6シグマ (緑)

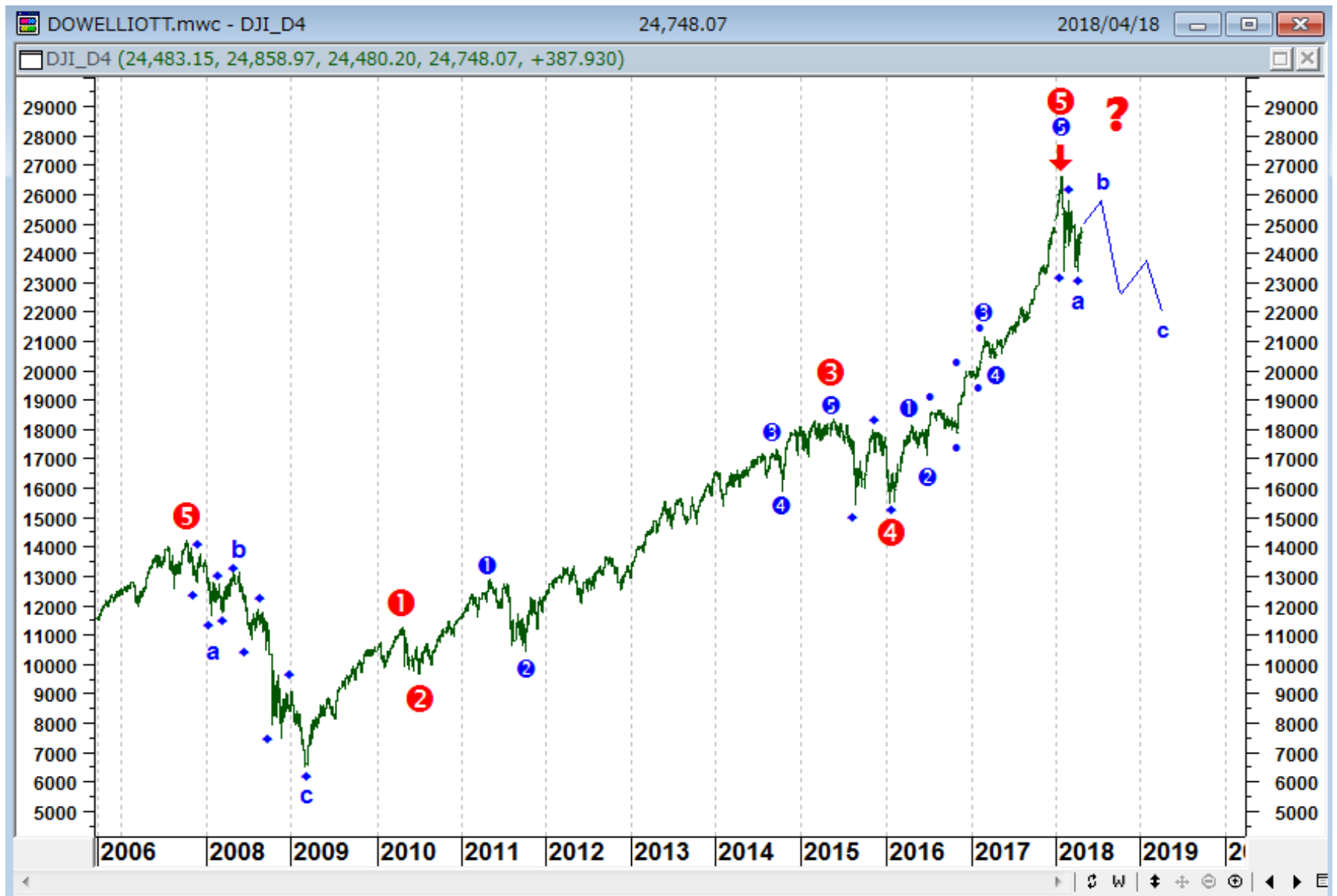


S&P500 (日足)

上段：14日修正平均ADX (赤) ・ 26日標準偏差ボラティリティ (青)
下段：21日ボリンジャーバンド±0.6シグマ (緑)



NYダウ（週足）と波動カウント

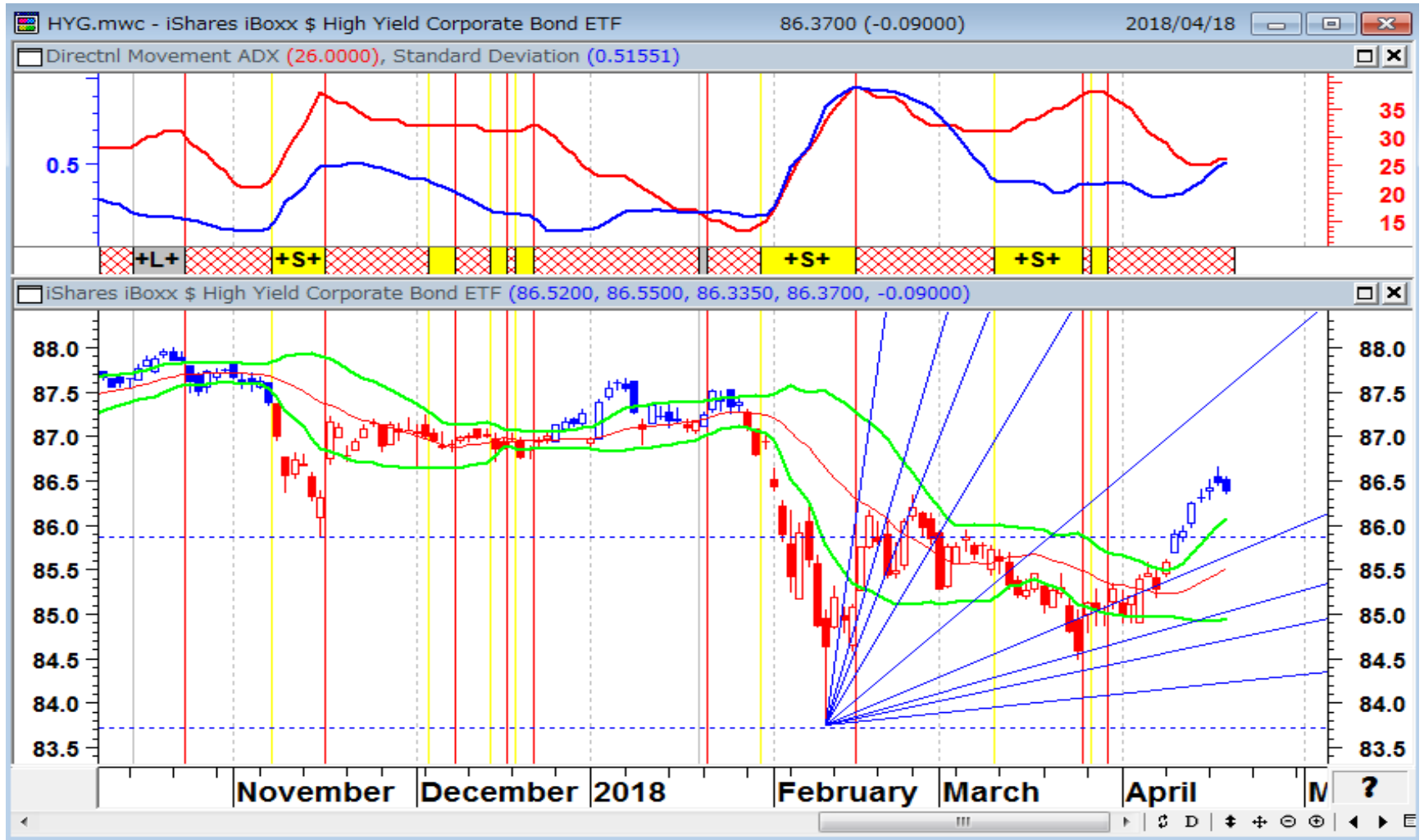


米国債のイールドカーブ



ジャンク債ETF iShares iBoxx \$ High Yield Corporate Bond ETF (ティッカー：HYG)

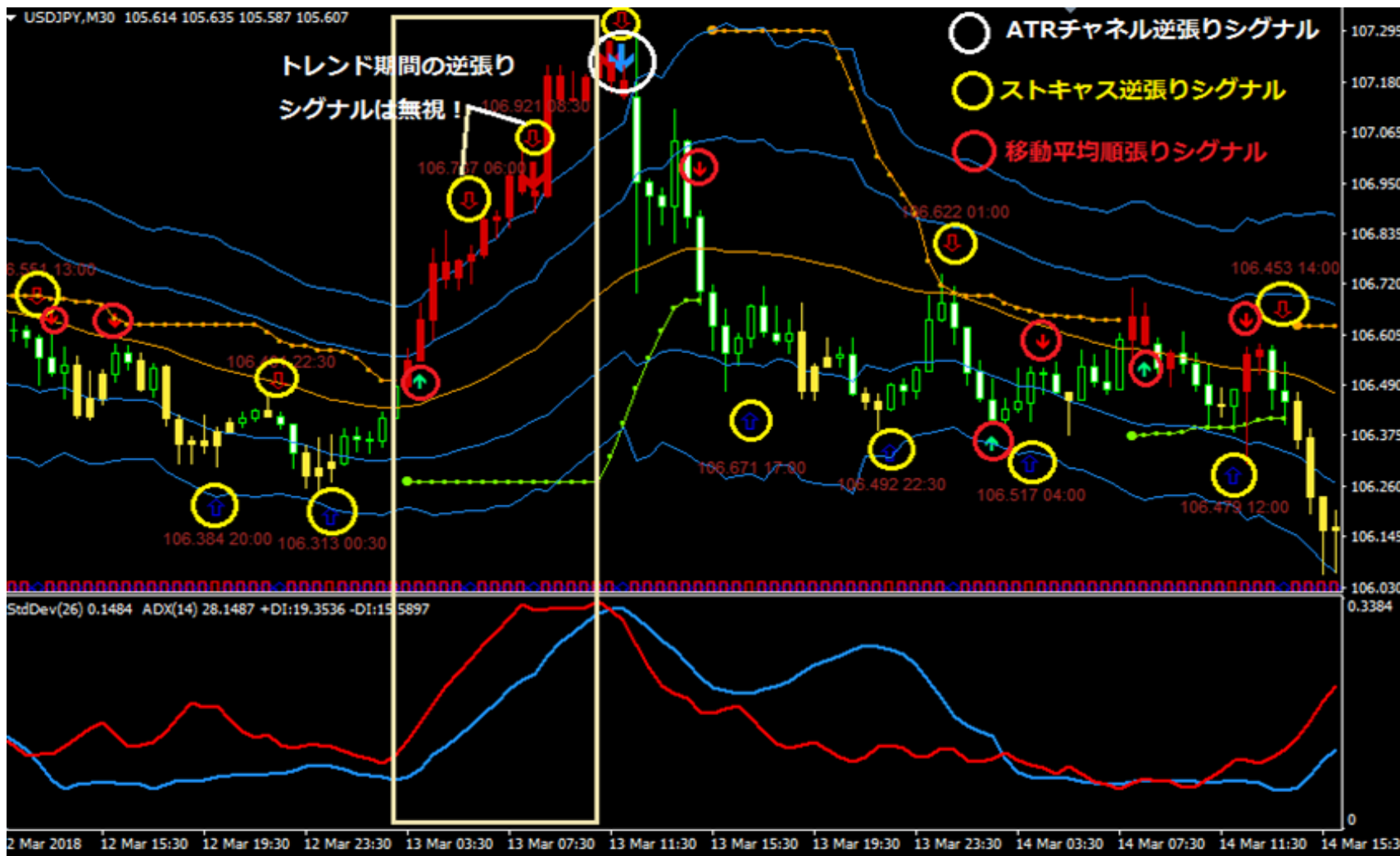
上段：14日修正平均ADX(赤)・26日標準偏差ボラティリティ(青)
下段：21日ボリンジャーバンド±0.6シグマ(緑)



ATRチャネルの売買シグナルの見方 サンプル：ドル/円（30分足）

上段：ATRチャネルと売買シグナル

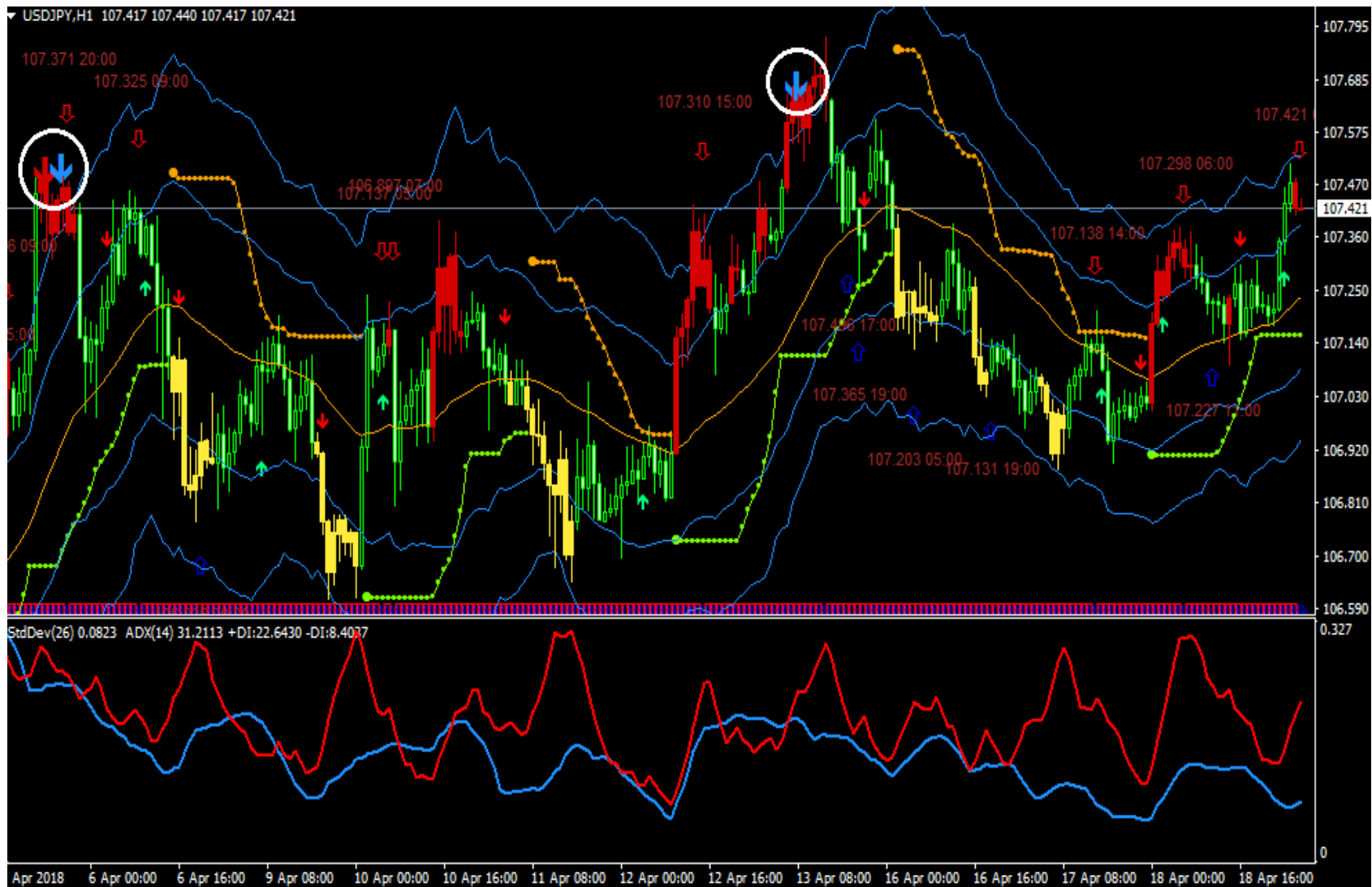
下段：修正平均ADX（14） = 赤・標準偏差ボラティリティ（26） = 青



ドル/円 (1時間足) ATRチャンネルトレードモデル

上段：ATRチャンネルと売買シグナル

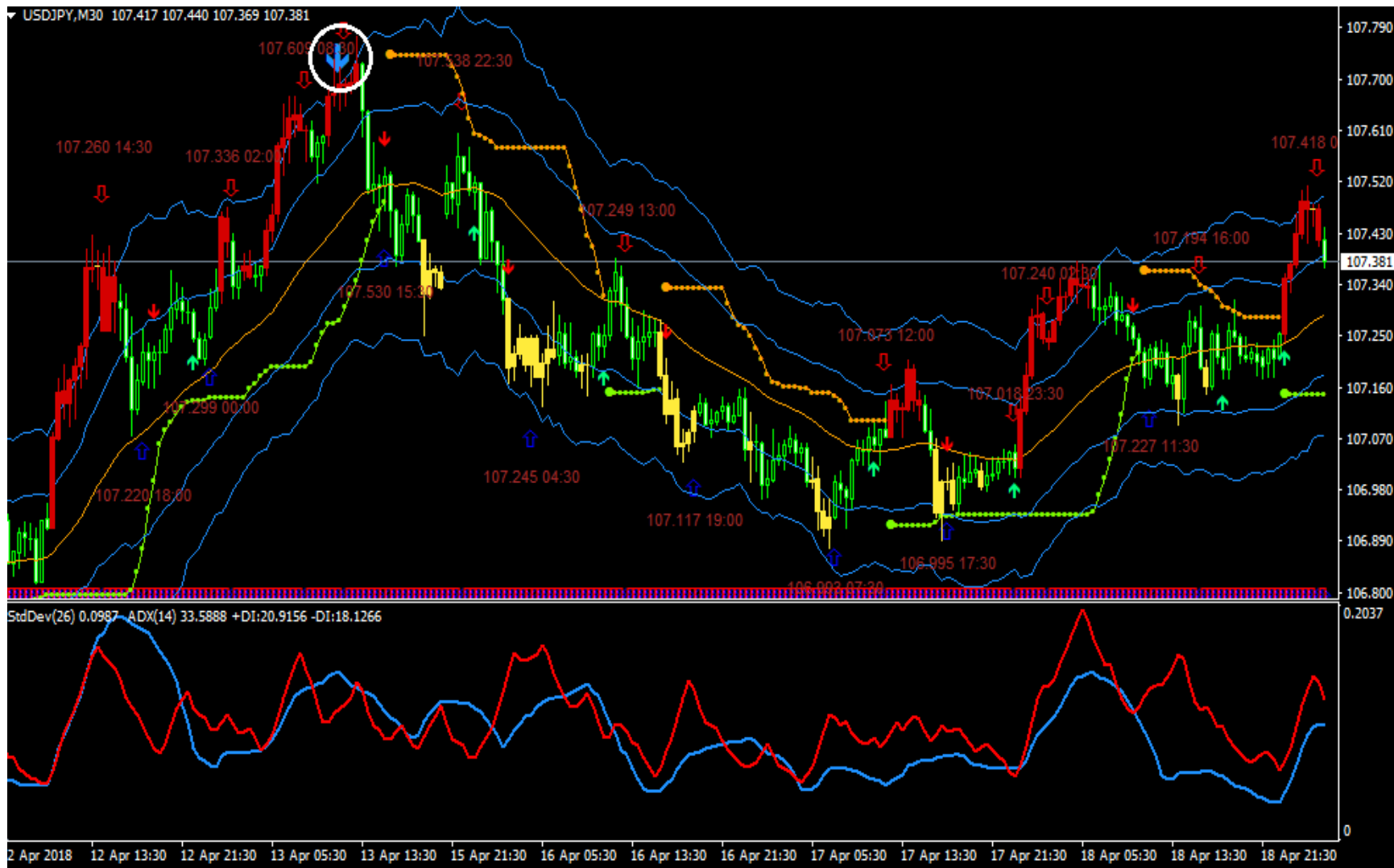
下段：修正平均ADX (14) = 赤・標準偏差ボラティリティ (26) = 青



ドル/円 (30分足) ATRチャネルトレードモデル

上段：ATRチャネルと売買シグナル

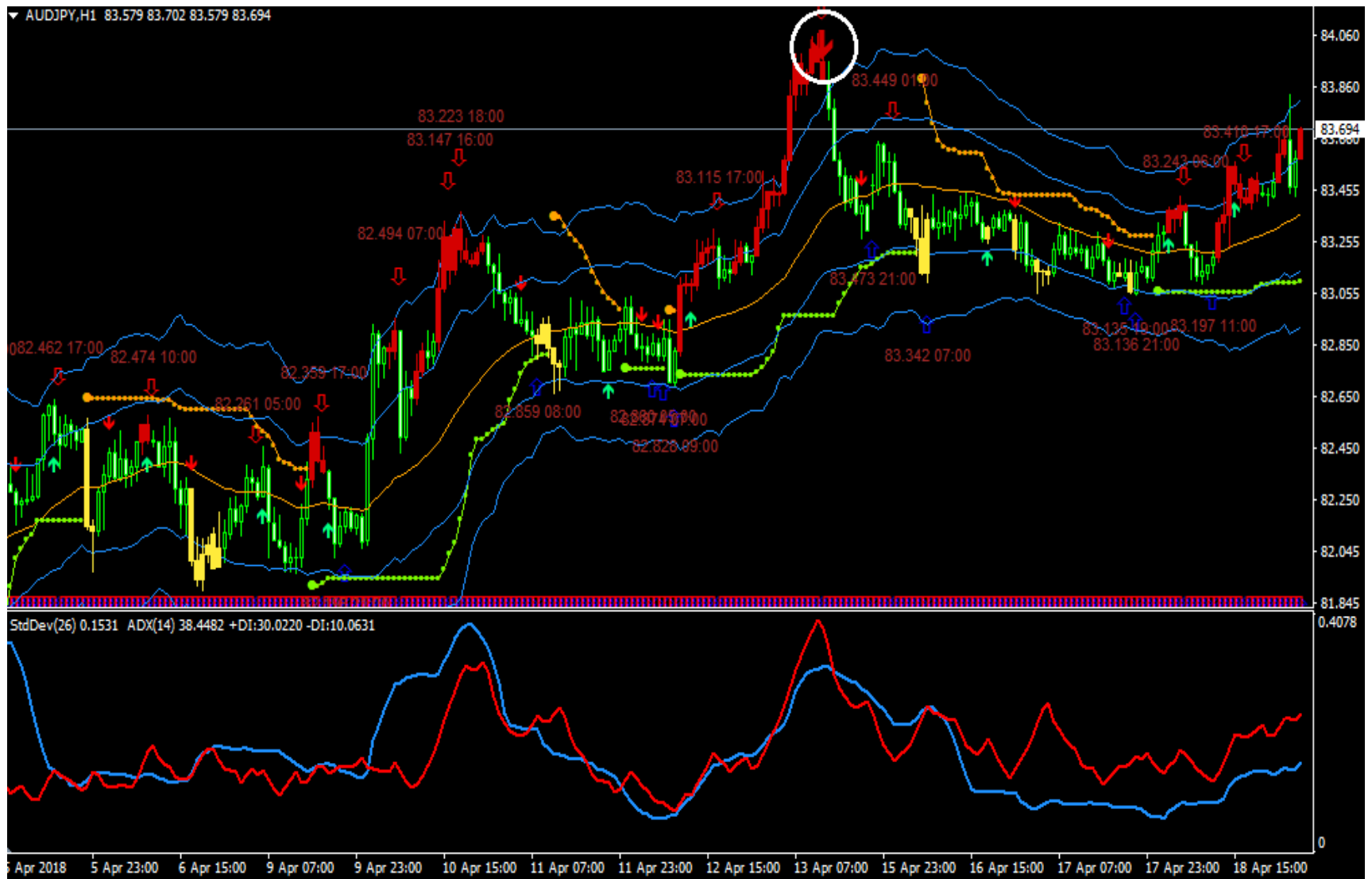
下段：修正平均ADX (14) = 赤・標準偏差ボラティリティ (26) = 青



豪ドル/円 (30分足) ATRチャンネルトレードモデル

上段：ATRチャンネルと売買シグナル

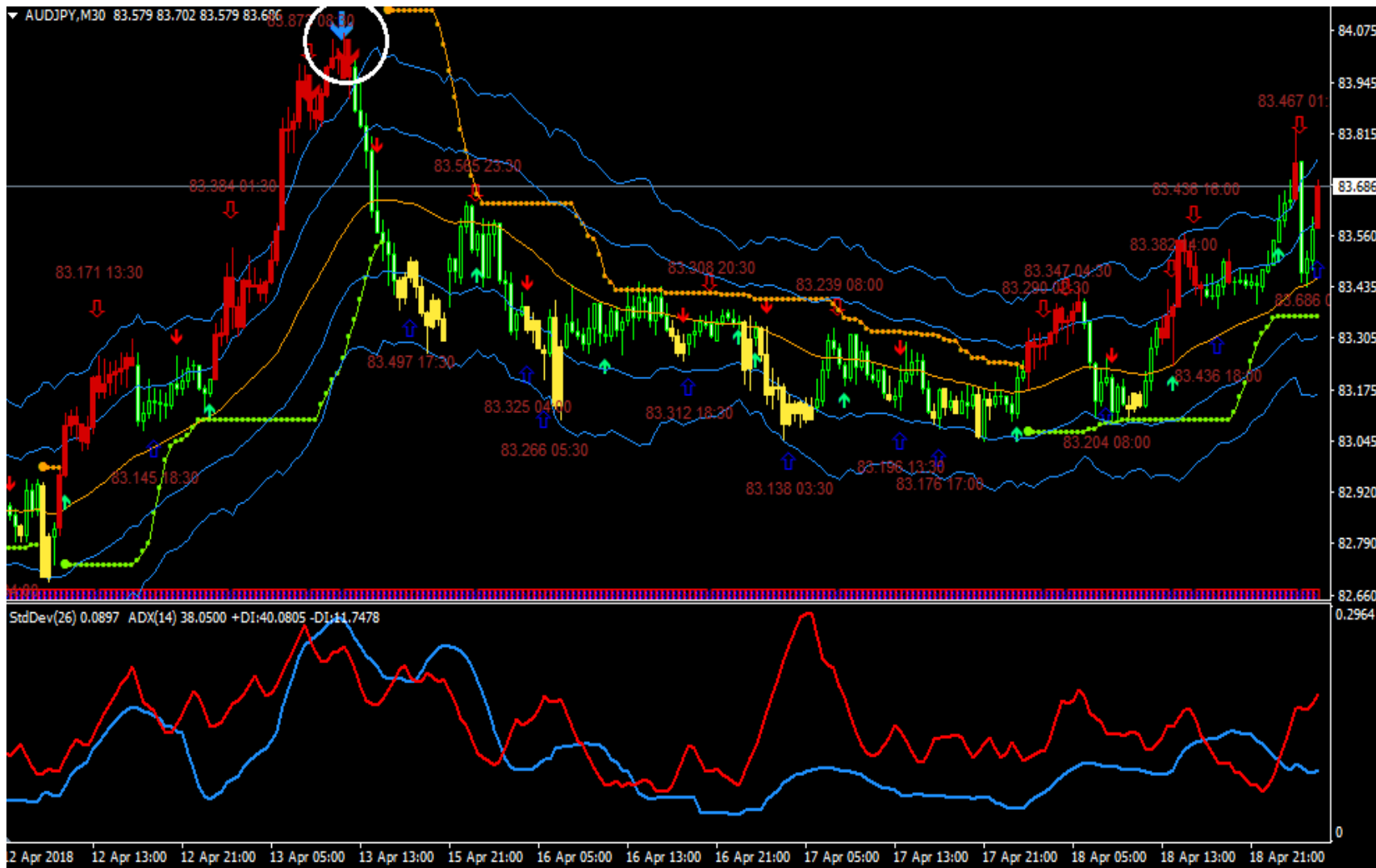
下段：修正平均ADX (14) = 赤・標準偏差ボラティリティ (26) = 青



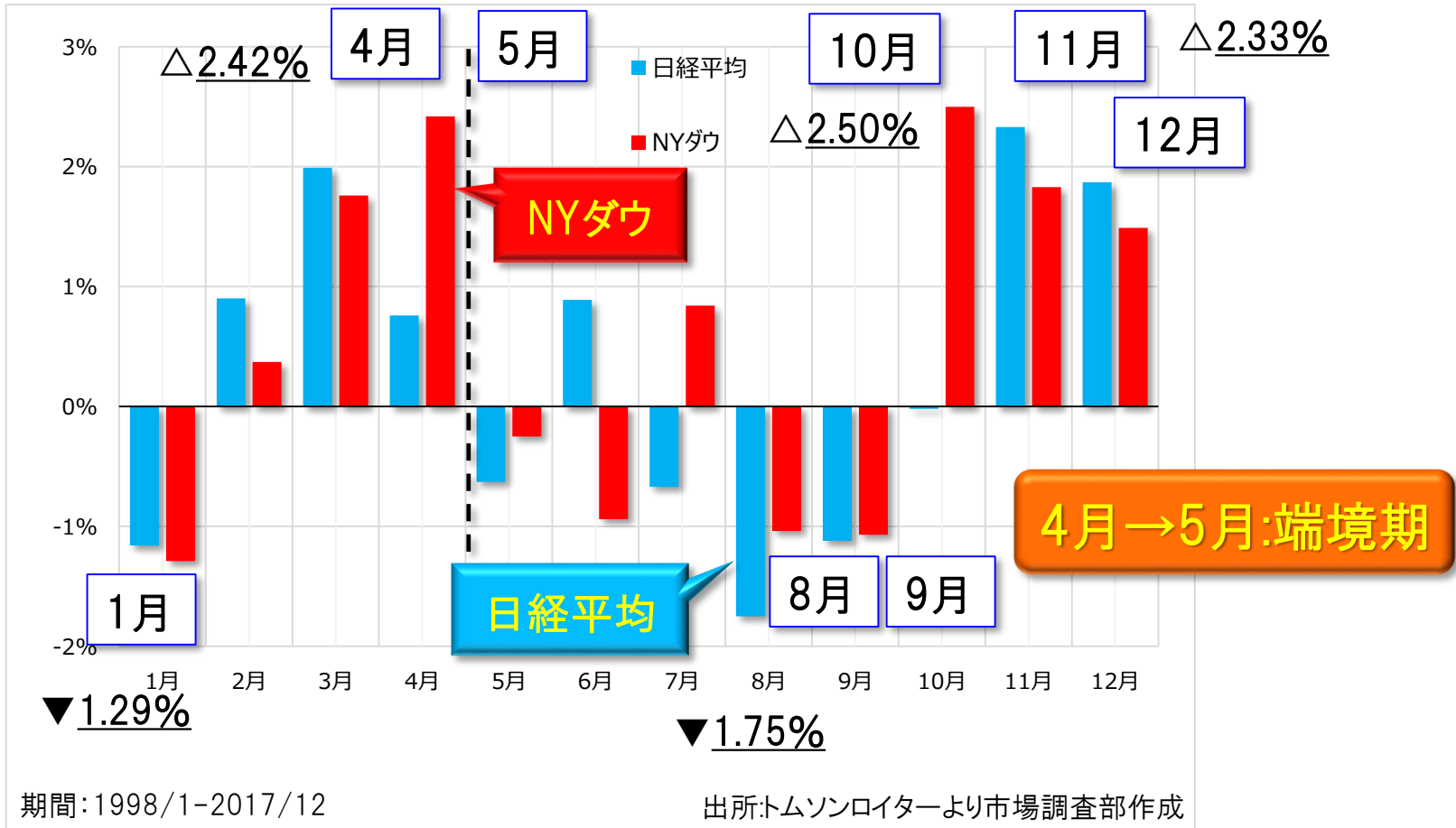
豪ドル/円 (30分足) ATRチャンネルトレードモデル

上段：ATRチャンネルと売買シグナル

下段：修正平均ADX (14) = 赤・標準偏差ボラティリティ (26) = 青



NYダウ・日経平均 月別平均騰落率表(過去20年)



過去10年 主要5銘柄 4月 陽線・陰線表

期間:2008/4-2017/4

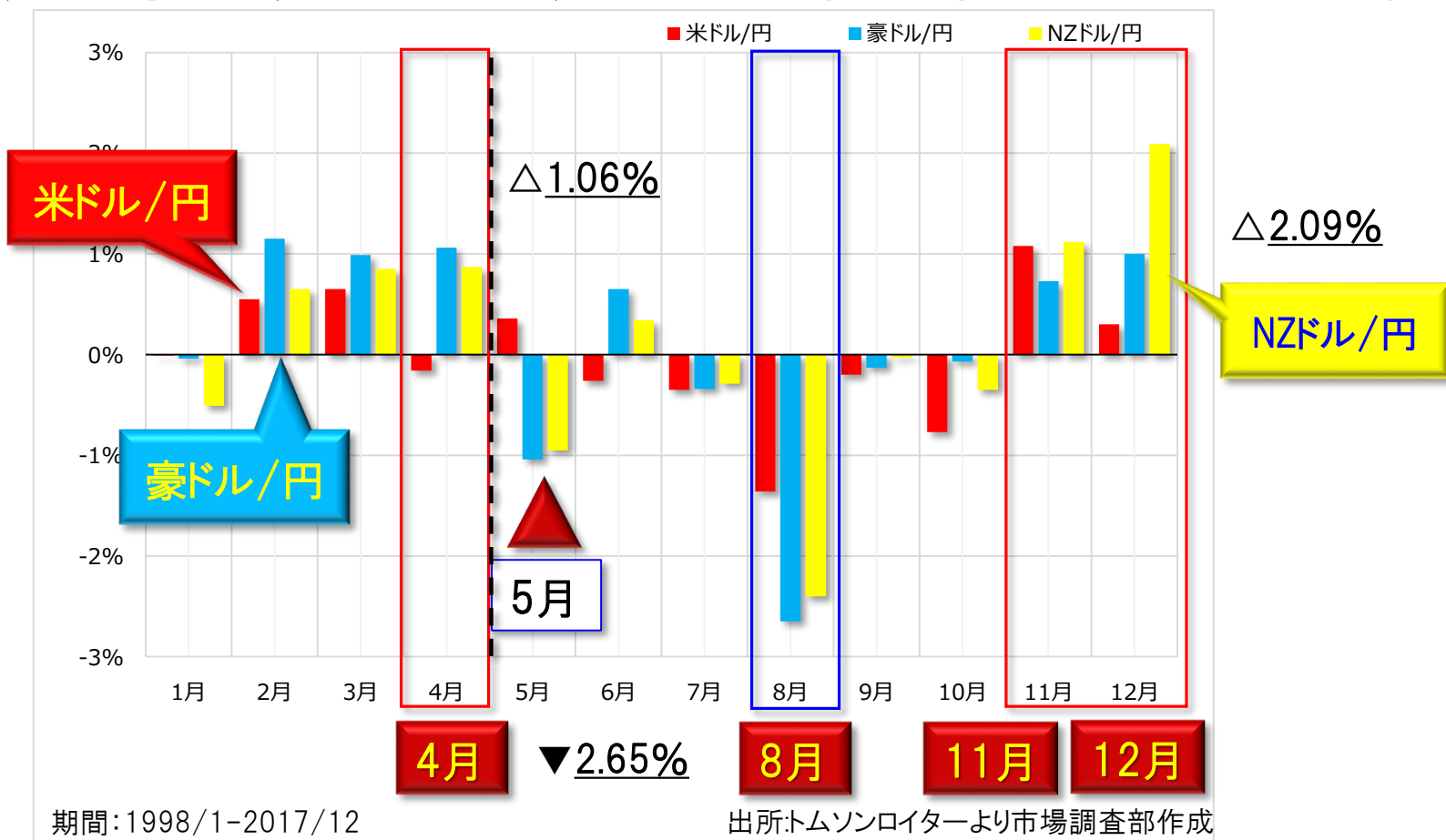
年	日経225	NYダウ	米ドル/円	豪ドル/円	NZドル/円
2008	○	○	○	○	○
2009	○	○	×	○	○
2010	×	○	○	○	○
2011	○	○	×	○	○
2012	×	○	×	×	×
2013	○	○	○	○	○
2014	×	○	×	×	×
2015	○	○	×	○	○
2016	×	○	×	×	×
2017	○	○	○	×	×
陽線確率	.600	1.000	.400	.600	.600

NYダウ
=「4月高」

※ 陽線:○、陰線:×

出所:M2JFX チャート、
時事通信社チャート

米ドル/円・豪ドル/円・NZドル/円 月別平均騰落率表(過去20年)



2008-2017年

過去10年[2008-2017年] 5月・陽線/陰線表

年	米ドル/円	豪ドル/円	NZドル/円
2008	○	○	○
2009	×	○	○
2010	×	×	×
2011	○	×	○
2012	×	×	×
2013	○	×	×
2014	×	×	×
2015	○	○	×
2016	○	×	○
2017	×	×	○
陰線確率	.500	.700	.500

※陽線:○、陰線:×

※5月陰線確率

出所: Bloomberg,
M2JFXチャート

2008-2017年

過去10年[2008-2017年] GW期間・陽線/陰線表

※ 週足チャート 陽線:○、陰線:×

年	GW期間*	米ドル/円	豪ドル/円	NZドル/円
2008	5/5-9	×	×	×
2009	5/4-8	×	○	○
2010	5/3-7	×	×	×
2011	5/2-6	×	×	×
2012	4/30-5/4	×	×	×
2013	5/6-10	○	×	×
2014	5/5-9	×	○	×
2015	5/4-8	×	○	×
2016	5/2-6	○	×	×
2017	5/1-5	○	○	○
陰線確率		.700	.600	.800

*GW=5/4を基準とする。日曜日の場合は、5日以降をGW週と規定。

出所:M2J ヒストリカルデータ

USD/JPY 週足・スパンモデル®+26週BB+パラボリック+DMI



出所:M2JFXチャート

期間:2017/2/12の週~2018/4/15の週

EUR/USD 日足・スパンモデル®+21日BB+パラボリック+DMI



出所:M2JFXチャート

期間:2018/1/19~4/20